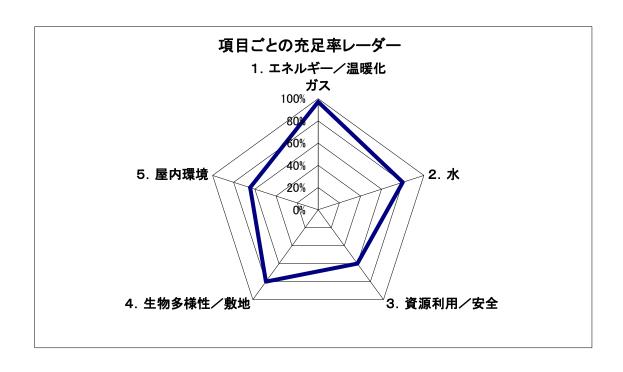
	<b>勿流施設</b>
建物概要	57,052 m <sup>2</sup> 評価の段階 運用段階評価 32,853 m <sup>2</sup> 評価の実施日 2025年7月28日
用途地域       準工業地域、準防火地域       延床面積         建物用途       物流施設       地上4階	
竣工年月2016年11月1日構造鉄骨造直近の大規模改修実施年月平均居住人員年間使用時間	確認日 2025年7月28日 人 確認者 東 晃司 時間/年 不動産評価員番号 ふ-001011-26
評価結果 79.6 /100 合計	ホールライフカーボンの評価 評価しない
(得点 / 満点)	The soul in the so
$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	取組項目数:A1-A5 B1,B3-B5 C1-C4
1. エネルギー/温暖化ガス	D0-D0 C1-C4
	指標 (*は参考値) 評価値 リング、運用管理体制
1.0 加点 1 根拠等 省エネルギー基準への適合、目標設定、モニタリン 理体制構築、テナント共同取組 19.0 20 1.1 使用・排出原単位(計算値)	ング実施、運用管 一次エネルギー(目標値) 330 MJ/m <sup>2</sup> ・年
19.0   20   1.1 使用・排出原単位(計算値)   根拠等   統計平均値と実績値から算出 C/S=0.63	ー次エネルギー(計画値) 329.6 MJ/m²・年 二次エネルギー(*) 33.8 kWh/m²・年
4.0 5 1.2 使用•排出原单位(実績値)	GHG排出量(*) 10.4 kg-CO <sub>2eq</sub> /m <sup>2</sup> • 年
根拠等   実績値から算出 	水道光熱費 <u>680.6</u> 円/m <sup>2</sup> ·年
5.0 5 1.3 省エネルギー(仕様評価) 省エネ計算対象を 根拠等 (1)屋根断熱④車路自然換気⑤倉庫LED⑨冷蔵省 省エネ	外の倉庫エリア等 ロード ロード
5.0 5 1.4 自然エネルギー(間接利用) 根拠等 太陽光発電容量3475.2kW 最大需要電力1300kW	
34.0 35 <b>合計</b> 2. 水	
評価 最大加点 適合 <b>必須項目</b> ;目標設定、モニタリング、運用管理体制 ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	指標 評価値
根拠等 目標値の設定、水道明細から使用量の確認  0 2.1 水使用量(計算値) 8.0 10 2.2 水使用量(仕様評価)	水使用量(目標値)L/m <sup>2</sup> ・年 評価しない
根拠等 ①節水型水栓②節水型便器⑤擬音装置 	取組数 3 項目 評価しない
8.0 10 合計 3. 資源利用/安全	
評価 最大加点 <u>適合 必須項目 : 新耐震基準への適合またはIs値、If値</u> 根拠等 新耐震基準への適合	指標 評価値
3.0 5 <b>3.1 高耐震・免震等</b> 3.1.1 23.1.2の点数 3.1.1 耐震性	数の高い方で評価 
根拠等 3.0 3.1.2 免震・制震・制振性能 根拠等 無	
2.0   5   <b>3.2 再生材利用率・廃棄物処理負荷抑制</b>   3.2.1 再生材利用率   1 と②0	の平均で評価する
3.0     ① 躯体材料     無       1.0     ② 非構造材料     無       3.2.2 廃棄物処理負荷抑制	
4.0 5 3.3 躯体材料の耐用年数 根拠等 建物耐用年数70年	経過年数+今後の想定耐用年数 70 年
2.9       5       3.4 主要設備機器の更新必要間隔/設備の自給率向上/維持管理/         3.8       3.4.1 主要設備機器の更新必要間隔	22
根拠等 発電機30年 受電盤25年 空調機15年 ポンプ15年 3.0 3.4.2 設備(電力等)の自給率向上	年 受水僧25年 関新年数の平均値
根拠等 「重要負荷への電力供給③通信途絶対策 4.0 3.4.3 維持管理 根拠等 「頻度②役割④点検⑤実施	自給率向上の取組数   2   項目   1   1   1   1   1   1   1   1   1
1.0       3.4.4 バリアフリー対策         根拠等       移動円滑化基準を満たさない	THE TOTAL CONTRACT OF THE PROPERTY OF THE PROP
12.0       20       合計         4. 生物多様性/敷地       4. 生物多様性/敷地	
評価 最大加点 適合 必須項目 ;特定外来生物・未判定外来生物・生態系被害防. 根拠等 生態系被害防止外来種に対して適切な対策を行った。	
10.0 10 4.1 生物多様性の向上	
[4.2対象外の時は点数を倍] 根拠等 ①自然資源保全②周辺植生配慮⑤生物資源管理 0.0 0 4.2 土壌環境品質・ブラウンフィールド再生 は対策 4.2 土壌環境品質・ブラウンフィールド再生	理 ②取組表による場合のポイント数
[対策不要は対象外]根拠等対象外4.054.3 公共交通機関の接近性3.04.3.1 公共交通機関の接近性	<u></u> なし
根拠等 ポートタウン西から徒歩13分 5.0 4.3.2 交通結節点への接近性、敷地周辺への配慮	鉄道駅またはバス停からの距離 13 分圏内
根拠等 ①大阪南港5km圏内②トラック待機場③車両誘導 2.0 5 4.4 自然災害リスク対策 根拠等 リスク有:①水害②液状化③津波④地震動	事表示   取組数   3   項目     リスクの合計数   4   種類
対策有:②液状化④地震動 16.0 20 <b>合計</b>	
5. 屋内環境 評価 最大加点	指標評価値
適合 <b>必須項目</b> ;建築物衛生管理基準の準拠または質問票への過程を表現している。	<u>適合</u> なし なし なし は 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
1.6     5     5.1 昼光利用     5.1.1の点数×2/3+5       1.0     5.1.1 自然採光	
根拠等   1F事務所1 床面積161.21㎡ 採光面積15.41㎡   3.0   5.1.2 昼光利用設備   根拠等   昼利用設備がない	開口率   9.6     昼光利用設備   0     種類
4.0       5         5.2 自然換気性能         根拠等         1F事務所1 床面積161.21㎡ 換気割合1/20	自然換気有効開口面積 8.0 ㎡
4.0       5       5.3 眺望・視環境         根拠等       1F事務所 屋外情報確認できる窓有         9.6       15         合計	天井高 2.7 m以上
6. ホールライフカーボンの評価 [任意] 評価 最大(加点なし)	指標        評価値
<ul><li>表記</li></ul>	取組数 A1-A5       項目         B6-B7       項目         B1,B3-B5       項目
	C1-C4 項目

CBL-CAS不動産-0309-25.xlsx 物流評価結果



環境性能の特徴
・節水型水栓や節水型便器の導入など節水への積極的な取組が実施されている
・自生種を植栽するなど生物多様性への取組が実施されている
・公共交通機関に近接しておりアクセス良好